

SPS(Stop Passive Smoking)プロジェクトの提案

Stop Passive Smoking＝受動喫煙防止

■ 企画概要

近年、各地で分煙が進められている。しかし、路上での喫煙がなくなったわけではない。そこでピンバッジ型の感知機でタバコの煙を感知し、受動喫煙の機会を減らすことで、肺がんなどの病気の予防につなげる。

■ 企画目的

受動喫煙の機会を減らし、肺がんなどの病気のリスクの減少、喘息などの持病の発作の防止を目指す。

■ ターゲット

毎日、都会に通勤・通学する喘息持ちの人、タバコの煙に強い抵抗がある人、禁煙中の人

■ 根拠・データ

現在では受動喫煙による肺がんのリスクは**1.28倍(28%の上昇)**、虚血性心疾患のリスクは**1.3倍(30%の上昇)**、脳卒中のリスクは**1.24倍(24%の上昇)**とされている。

日本呼吸器学会から喘息患者の受動喫煙は発作のリスクを上昇させると報告されている。

また世界では受動喫煙が原因で年間**60万人**が死亡していると推計されている。





■ 使用方法

ピンバッジ型の感知機を**Bluetooth**でスマホなどの端末と連携させ、専用のアプリで確認する。機械が煙を感知すると、機械が振動し、端末に通知が届く。感知した煙の濃度が高くなるにつれて、振動が速くなっていく。

■ 予算

3～5千円くらいが理想的。誰でも買える値段にしたい。



受動喫煙を受ける場所	疾 患		
		男 性	女 性
 家 庭	 肺がん	201 人	1,131 人
	 虚血性心疾患	206 人	1,640 人
 職 場	 肺がん	448 人	340 人
	 虚血性心疾患	1,366 人	1,471 人

合計 6,803人